

## 顕彰状

周善會（ジュ・ソンフェ）氏は、1946年2月21日に大韓民国慶尚南道咸安で生まれ、1969年高麗大学校法学科を卒業した。同年、司法試験に合格し、検事と憲法裁判官として約36年間に渡る公職を通して、多大なる社会的貢献を果たした。特に2004年には、大統領弾劾審判の主審として活躍し、法曹人の原則と所信を守りながら、その責務の重圧に屈することなく、社会的弱者を思いやる温かい心と冷静な頭脳を持った公職者として、大韓民国の法曹界の発展に大きな足跡を残した。このような功労を認められ、これまで大韓民国政府から紅條勤政勲章、黄條勤政勲章、青條勤政勲章を授与されている。

周氏は2013年から2016年の間、第31代高麗大学校校友会会長、ならびに高麗大学校学校法人理事として校友会と大学の様々な改革を推進した。その中でも特筆すべきは、世界に伍する研究大学としての地位を一層確かなものとするため、2014年に「校友会学術賞」制度を新設したことである。これは人文社会、自然理工、保健医薬の3分野に対し、毎年3,000万ウォンを授賞する奨励制度であり、高麗大学校の研究活動の活性化にとどまらず、卓越した研究を通して、学術の発展に多大なる貢献を果たした。

また、次代を担う若者の育成にも余念がなく、個人名義の奨学金制度の拡大を通じて、毎年20億ウォンを超える規模の校友会奨学金を制定し、意欲ある学生の修学環境の改善を通して、より一層素晴らしい人財を社会に輩出する環境を整えた。

その他にも、周氏の改革手腕を語るには枚挙に暇がなく、低所得者層の支援を目的とした奉仕団体を校友会傘下に設置し、退職を控えた校友を対象に再教育プログラムを無料で提供する「校友アカデミー」を開講するなど、既存の校友会活動とは一線を画す大胆かつ革新的な取り組みは、まさに周氏のリーダーシップの賜物であり、社会的にも有意な活動として高い評価を得ている。高麗大学校と早稲田大学は、1962年から開始したサッカー定期戦をきっかけに、1973年に学術交流協定を締結し、長きにわたり、学術、スポーツ、文化活動において交流を行っている。さらに、2002年に高麗大学校校友会と早稲田大学校友会との間で交流協定を締結した。両校友会は、互いの開校記念日に訪問することを定例化し、スポーツ交流、職員交流など、学生や教職員のみならず、校友も含めた多様な交流へと拡充した。長きに渡り密接で友好的な高麗大学校と早稲田大学の校友会同士の関係は、このよう周氏のリーダーシップに大きな刺激を受け、その関係の一層の強化と、本学校友会活動の活発化に極めて大きな影響を残した。相互の頻繁な往来により両大学校友間の親交を温めるとともに、ひいては日韓両国間の親善にも貢献するなど、この間の周氏の功績にはまことに大きいものがある。

このように、周氏は大韓民国の法曹界の発展に大きく寄与し、その確かな実務経験と温かい人柄に裏打ちされたリーダーシップと学術への深い理解をもとに、高麗大学校の改革を通じた教育・研究への貢献、ならびに校友会会長として両大学の友好関係、および学術交流の更なる発展に多大な貢献を果たしている。

ここに早稲田大学は、周善會氏に  
名誉博士（Honorary Doctor of Laws）の学位を贈ることを決議した。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

*(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!)*

2022年10月23日

早稲田大学